

福井大学工学部 正置 福井卓雄

均質弾性体中に埋め込まれた棒の解析は、コンクリート中の鉄筋、地盤中のくい、あるいは、ロックボルトなどの力学的挙動を把握するために、最も基本的である。本論文は、上記の問題を解析するための一方法を提案するものである。こゝで、棒は、軸直形、曲げおよびせん断変形を考慮した梁として扱う。まず、棒を含む弾性体についての Neillinger-Reissner の定理を変形して、問題を扱い易い形の変分原理を導く。次に、棒の内部の応力分布について、いくつかの仮定をもうけ、棒を含む弾性体の問題を定式化する。最後にこれらの定式化をもとにして、棒の断面力を未知関数とする解法を提案する。

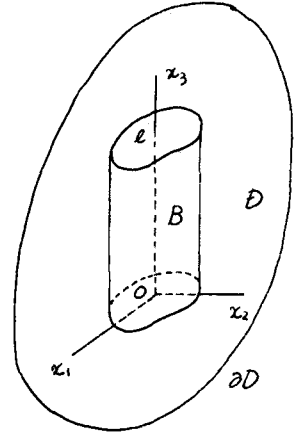
弾性体 D に棒 B が埋め込まれているとし、直交座標系を図のようにとする。

Neillinger-Reissner の定理を用いるための汎関数は⁽¹⁾

$$-\Pi_R = \int_{D+B} \{ \hat{B}(\hat{\tau}) + (\hat{\tau}_{ij,j} + b_i) u_i \} dV - \int_{\partial D_3} (T_i - \bar{T}_i) u_i dS - \int_{\partial D_u} T_i \bar{u}_i dS \quad (1)$$

となる。こゝで、 u_i , b_i , $\hat{\tau}_{ij}$, T_i は、それぞれ、変位、物体力、応力、境界応力と表れる。また、

$$B(\tau) = \frac{1}{2} \hat{E}_{ijkl} \tau_{ij} \tau_{kl}$$



である。こゝに、 $\hat{E}_{ijkl}$ は弾性係数、弾性体 D は E_{ijkl} 、棒 B は E_{ijkl}^B である。こゝの領域 $D+B$ は、一般に弾性体 $D+B$ (E_{ijkl}) であり、 B の部分では $E_{ijkl}^* = E_{ijkl}^B - E_{ijkl}$ の仮想的な棒の補剛材とみなすことも考えられる。こゝで、 E_{ijkl} に対応する応力 τ_{ij} とすれば、 D で $\hat{\tau}_{ij} = \tau_{ij}$ 、 B で $\hat{\tau}_{ij} = \tau_{ij} + \tau_{ij}^*$ であり、 D と B との境界では $-\tau_{ij} n_j$ (n_i は B の境界 ∂B の法線ベクトル) での不連続の応力 τ_{ij}^* に存在する。補剛材に対応する変位 u_i^* と Lagrange 乗数 g_i^* を導入すれば、式 (1) は変形して、

$$-\Pi_{MR} = \int_{D+B} \{ B(\tau) + (\tau_{ij,j} + b_i) u_i \} dV + \int_B \{ B^*(\tau^*) + \tau_{ij,j}^* u_i^* \} dV - \int_{\partial B} T_i^* u_i dS + \int_B g_i^* (u_i - u_i^*) dV - \int_{\partial D_3} (T_i - \bar{T}_i) u_i dS - \int_{\partial D_u} T_i \bar{u}_i dS \quad (2)$$

となる。こゝで、 $T_i^* = \tau_{ij}^* n_j$ である。

座標軸 x_3 は B の断面の図心を通るものとし、 τ_{ij} と Lagrange 乗数 g_i^* とは

$$\tau_{\alpha\beta}^* = \frac{1}{A} N(x_3) + e_{\alpha\beta\gamma} x_\gamma I_{\alpha\mu}^{-1} M_\mu(x_3), \quad \tau_{\alpha\alpha}^* = Q_{\alpha\beta}(x_3) Q_\beta(x_3), \quad \tau_{\alpha 3}^* = 0 \quad (3)$$

$$g_\alpha^* = \frac{1}{A} g_\alpha(x_3) + e_{\alpha\beta\gamma} x_\beta I_{\alpha\mu}^{-1} q_{\beta\mu}(x_3), \quad g_\alpha^* = Q_{\alpha\beta}(x_3) q_\beta(x_3) \quad (4)$$

のように仮定する。こゝで、 α, β は 1, 2 の値をとるものとし、 N, M_α, Q_α は仮想的補剛棒の軸力、曲げモーメント、せん断力である。また、 A は B の断面積であり、 $I_{\alpha\beta}$ は 2 次の断面モーメントで、

$$I_{\alpha\beta} = \int_A e_{\alpha\alpha\lambda} e_{\beta\beta\mu} x_\lambda x_\mu dA, \quad Q_{\alpha\beta, \alpha} = -e_{\alpha\lambda\mu} e_{\beta\beta\mu} x_\lambda I_{\lambda\mu}^{-1}, \quad Q_{\alpha\beta} n_\alpha = 0 \quad (\text{棒の周囲}) \quad (5)$$

である。また、変位 u_i^* について、

$$u_3^0 = \frac{1}{A} \int u_3^* dA, \quad u_{3\alpha}^0 = \int e_{3\alpha\mu} x_\mu I_{\alpha\alpha}^{-1} u_3^* dA, \quad u_\alpha^0 = \int \Theta_{\alpha\mu} u_3^* dA$$

とすると、式(2)は

$$\begin{aligned} -\Pi_{mR} = & \int_{D+B} \{ B(z) + (c_{ij,j} + b_i + q_i^*) u_i \} dV - \left[\int_A T_i^* u_i dA \right]_0^l - \int_{\partial D_S} (T_i - \bar{T}_i) u_i dS - \int_{\partial D_u} T_i \bar{u}_i dS \\ & + \int_0^l \left\{ \frac{1}{2} \left(\frac{N^2}{EA} + \frac{I_{\alpha\alpha}^{-1}}{E} M_\alpha M_\beta + \frac{k_{\alpha\beta}^{-1}}{GA} Q_\alpha Q_\beta \right) + (N_{i,3} - q_3) u_{i,3} + (M_{\alpha,3} - e_{3\alpha\beta} Q_\beta - q_{3\alpha}) u_{3\alpha} \right. \\ & \left. + (Q_{\alpha,3} - q_\alpha) u_\alpha \right\} dx_3 \quad (6) \end{aligned}$$

となる。ただし、 E, G はそれぞれ、軸方向の Young 率とせん断弾性係数であり、 $\frac{k_{\alpha\beta}^{-1}}{A} = \int_A \Theta_{\alpha\mu} \Theta_{\beta\mu} dA$ であり、式(6)に $q_3 = N_{i,3}$, $q_{3\alpha} = M_{\alpha,3} - e_{3\alpha\beta} Q_\beta$, $q_\alpha = Q_{\alpha,3}$ という関係式を代入すると、

$$\begin{aligned} -\Pi_{mR} = & \int_{D+B} \{ B(z) + (c_{ij,j} + b_i + q_i^* [N, M_\alpha, Q_\alpha]) u_i \} dV - \left[\int_A T_i^* u_i dA \right]_0^l \\ & - \int_{\partial D_S} (T_i - \bar{T}_i) u_i dS - \int_{\partial D_u} T_i \bar{u}_i dS + \int_0^l \left\{ \frac{1}{2} \left(\frac{N^2}{EA} + \frac{I_{\alpha\alpha}^{-1}}{E} M_\alpha M_\beta + \frac{k_{\alpha\beta}^{-1}}{GA} Q_\alpha Q_\beta \right) \right\} dx_3 \quad (7) \end{aligned}$$

となる。この式の停留条件は、

$$D \text{ において } \frac{1}{2} (u_{i,j} + u_{j,i}) = E_{ijkl} z_{kl}, \quad c_{ij,j} + b_i + q_i^* = 0 \quad (8)$$

$$\text{つまり、} \quad f_\alpha^* = \Theta_{\alpha\beta} \{ Q_{\beta,3} - [Q_\beta]_0^l \} \quad (9)$$

$$f_3^* = \frac{1}{A} \{ N_{i,3} - [N]_0^l \} + e_{3\alpha\beta} x_\beta I_{\alpha\alpha}^{-1} \{ (M_{\alpha,3} - e_{3\alpha\mu} Q_\mu) - [M_\mu]_0^l \}$$

$$\partial D \text{ において、} \quad T_i = \bar{T}_i \quad (\partial D_S), \quad u_i = \bar{u}_i \quad (\partial D_u)$$

$$\begin{aligned} B \text{ において } \quad \frac{N}{EA} &= \frac{1}{A} \int_A u_{3,3} dA, \quad \frac{M_\alpha}{E} = e_{3\alpha\beta} \int_A x_\beta u_{3,3} dA \\ \frac{Q_\alpha}{GA} &= k_{\alpha\beta} \left(\int_A \Theta_{\beta\mu} u_{\alpha,3} dA - e_{3\beta\gamma} \int_A e_{3\gamma\mu} I_{\mu\mu}^{-1} x_\mu u_3 dA \right) \quad (10) \end{aligned}$$

である。即ち、棒Bの周辺弾性体Dに与える効果は仮想拘束力 f_i^* による効果として表す小、 f_i^* は仮想の補剛棒の断面力 N, M_α, Q_α を表す小。

いま、与えられた問題の解を、Kelvin 解 $G_i^{(k)}(z; y) = \frac{1}{4\pi\mu} \left\{ \frac{\delta_{ik}}{r} - \frac{r_{,ik}}{4(1-\nu)} \right\}$ を用いて

$$u_i(z) = \int_{\partial D} G_i^{(k)}(z; \xi) \phi_k(\xi) dS_\xi + \int_B G_i^{(k)}(z; y) f_k^*[N, M_\alpha, Q_\alpha](y) dV_y$$

と表す小のものとす小、与えられた境界条件および式(10)により、境界 ∂D 上の未知関数 $\phi_k(y)$ および棒Bの軸上の未知関数 $N(z), M_\alpha(z), Q_\alpha(z)$ について2重積分方程式が得られる。これを解くことにより与えられた問題を解くことができる。

ここで述べた定式化は、棒の軸力 N だけを考慮する場合に、Muki & Sternberg⁽²⁾ の与えたものと同一形となる。

(参考文献)

- (1) Washizu, K., Variational Methods in Elasticity and Plasticity, 2nd ed. Pergamon, New York (1975)
- (2) Muki, R. and E. Sternberg, Elastostatic Load-Transfer to a Half-Space from a Partially Embedded Axially Loaded Rod, Int. J. Solid Structures **6**, 69-90 (1970)